

〔国際会議発表〕

発表研究者	福井大学子どものこころの発達研究センター 特命助教 熊崎 博一	2042102
参加会議	American Academy of Child and Adolescent Psychiatry (AACAP) 61st Annual Meeting	
出張期間	2014年10月18日～10月26日	
開催場所	米国 サンディエゴ	
発表論文	Assessment of Olfactory Detection Thresholds in Adolescents with Autism Spectrum Disorder Using New Olfactory Measurement System	

概要：

AACAP61st Annual Meeting は世界最高峰の児童思春期精神医学分野の学術集会である。米国のみならず世界中から約 4,000 人の参加者が集まる。自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder: ASD）者の感覚特性については、米国精神医学会から 2013 年に刊行された精神科の世界的診断基準である DSM-5 の診断項目において新たに取り上げられることとなり、多くの科学者の関心を集めている。感覚特性の中でも嗅覚は ASD 者の社会的予後と関係することが推測され注目されていたが、嗅覚特性を客観的に検査することが困難であり解明は不十分であった。今回の論文を報告することで、ASD 者の嗅覚特性と社会的予後との因果関係について多くの科学者と議論すること、ASD 者の嗅覚特性に配慮した環境調整についても議論することが重要な目的であった。ポスター掲示の時間は二時間半であったが、多くの参加者から質問をいただくことができた。質問者の多くは臨床医であったが、ASD 者が日常の場面で苦しんでいる嗅覚特性と本研究結果から想定される因果関係について熱心に考察してくれた。改めてにの濃度や種類、さらににのに対する快・不快などの留意点について再確認したが、一方で ASD 者が生理的検査を行った際に、確かに定型発達群と嗅覚特性が異なるという事実を一つずつ明らかにしていくことこそが、ASD 者の特性の解明・支援へとつながることを共有できた。カリフォルニア大学サンフランシスコ校のヘンドレンとは ASD 者の嗅覚特性と社会機能の関係について議論し、今後本研究をいかに臨床医に還元する形で結び付けていくかについて頭の中を整理することができた。研究の立ち位置、課題、今後の方向性について整理することができ大変有意義な機会となった。